

2023 4.22 SAT
8.20 SUN

入館料	一般	400円
	大学生	300円
	高校生	200円
	中学生以下	無料

多 様 性

メディアを変えたもの

メディアが変えたもの

会場 ニュースパーク(日本新聞博物館) 2階企画展示室
開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(祝日・振替休日の場合は次の平日)
主催 ニュースパーク(日本新聞博物館)
後援 神奈川県教育委員会/横浜市教育委員会/川崎市教育委員会

いま、さまざまな分野で、ジェンダー、マイノリティーなどの「多様性(ダイバーシティ)」を推進しようとする取り組み「DE&I*」が進んでいます。新聞・放送・通信社は、社会の中の差別などを問題提起し、その撤廃を報道や事業活動を通じて訴えてきました。制度整備につながった事例も多くあります。一方で、メディアの中の多様性は、なかなか進んでいないと内外から指摘されています。それでも、女性記者(社員)の増加や若い世代の意識の変化などによって、新しい視点での活動は増えています。「多様性」をキーワードに、「メディアが変えてきたもの」と「メディアを変えてきたもの」を時代の変化とともに振り返りながら、未来の議論につなげていきます。

*DE&I=Diversity(多様性) Equity(公平性) & Inclusion(包み込む、受け入れること)の頭文字

展示では、まず明治から昭和初期までの新聞紙面を中心に、第1章で女性、第2章で疾病・障害や民族、貧困等がどのように取り上げられてきたかを紹介します。第3章は、昭和以降、特に1985年の男女雇用機会均等法の成立後、メディアの中の多様性がどのように進んできたかがテーマです。第4章は、ジェンダー平等、男性らしさ、子供、病気や障害がある人、性的少数者、犯罪被害者、外国人、少数民族など、今も続く課題を取り上げた新聞紙面等を展示します。第5章はこれからの「メディアと多様性」。メディア

内外の若者の声を、多様性教育の現場の取り組みも交えて紹介します。赤松良子日本ユニセフ協会会長、村木厚子元厚労事務次官、林香里東大副学長、細田満和子星槎大教授、松田崇弥ヘラルポニー社長など、男女雇用機会均等法や女性・障害者政策の整備、メディア研究、医療社会学、知的障害者によるアートの事業化等に関わってきた方をはじめ、内外のメディア関係者らのコメントも紹介する予定です。来場者からの声も随時紹介していきます。

保育園

男性の育児休業

#MeToo

入管施設暴力

シングルマザー

トートメー継承

都立高定員制

性から生へ

同性婚

女性リーダー(女性管理職)

女性兵

性暴力(フラワーデモ)

働き方改革

子どもの貧困

#Kutoo

しまくとぅば

クオータ制

国際女性デー

コロナ禍

男女雇用機会均等法35年

アートとジェンダー

災害と女性

地方議会と女性

中国残留邦人

ベビーホテル

アイヌ

賃金格差

男らしさ

声なきSOS

外国人労働者

フェミニズム

都道府県版ジェンダー・ギャップ指数

「女性蔑視」発言

子育て議員

Z世代

SDGs

ジェンダー平等

障害

インクルーシブ教育

障害児・疾患児ケア

配偶者の呼称 LGBTQ(性的少数者)

性差別

セクハラ

パートナーシップ制度

医学部入試

多様な家族の形

ハンセン病

育児・介護休業法

特別養子縁組

選択的夫婦別姓

ジェンダーバイアス

犯罪被害者

女性活躍推進法

アスリート性的画像問題

在日コリアン ヤングケアラー



点字毎日附録「点字のこよみ」(カレンダー)=1940年1月4日(大阪毎日新聞社・東京日日新聞社)



「私の履歴書 赤松良子」。「男女雇用機会均等法の母」と呼ばれた赤松さんの連載は2022年、『男女平等への長い列』として単行本化された=日本経済新聞 2021年12月1日付(同社提供)



主に知的障害のある作家のアートデータを軸に様々な事業を展開する「福祉実験ユニット」「ヘラルポニー」(岩手県)と岩手日報社が協力して制作した「やさしい投票ガイド」。知的障害のある人とその家族が選挙に参加しやすい環境をつくることを目指した=岩手日報別刷り 2022年7月8日



世界経済フォーラムが公表している「ジェンダー・ギャップ指数」の手法を踏まえ、共同通信社と上智大・三浦まり教授らが協力して作成した「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」。指数をもとに全国の共同通信加盟社が多彩な報道を展開した=2022年



無認可で乳幼児を預かる「ベビーホテル」のずさんな実態をTBSが継続して伝え、世論や国会を動かし児童福祉法改正につながった=読売新聞 1981年5月28日付夕刊(同社提供)

